

天水町(熊本県)のみかんと

CDU化成

河 見 泰 成

熊本市の西方に金峰山という、なだらかな稜線を持った美しい山がそびえている。この山の南の裾(すそ)を回ると、視界は豁然(かつぜん)とひらけ、有明の海の向うに島原半島が煙っている。飽託郡河内芳野村から天水町を経て北は玉名市あたりへかけての山稜から、海岸の南西或いは西へのびゆるやかな斜面には、その栽培の歴史を物語るように、黒ずんだ石垣で階段式に構築された“みかん園”が団地を形成している。いわゆる“天水みかん”の産地なのだ。

“天水みかん”栽培のそもそも…?それはですなあ…、紀元88年、景行天皇が肥後の国へ巡幸されたとき…”

と、筆者の前にいる小柄でやせぎすだがどことなく精悍な感じのする人物が、“紀元88年”などと、あまりに時代離れのした話に、目をパチクリやっている筆者を、いたずらっぽく眺めながら

“そうです、88年景行天皇が肥後を巡幸されたとき、肥後の国小天(こあま)の土地の肥沃なのをご覧になり、他国からの献上品である“小みかん”(コミカン)の種子を、小天村の住民に与えて播種させられたのが初めじゃと云われとりますけん。”

と文章にするとこうなるのだが、これを非常に早口で云ってのけ、“こんな早口じゃが判りますか?”と云った。

この小柄な人物こそ、その生一本(きいっぽん)な性格と、精神的で、ち密な指導振りから、天水町管内はもとより、相当遠距離にいる生産農家にまで知られている熊本県天水農協の営農指導係主任田上(たのうえ)正弘さんだ。(この日も、芦北郡田浦町(八代と水俣の中間)の田浦農協の営農指導員永野博幸さんら一行が来訪された。)

品質の均一的な向上と

栽培技術の改善が絶対要件

緩効性窒素肥料としての“CDU化成”が、水稲に、果樹園芸用に、最近とみにシェアを拡大しつつあることはご承知のとおりだが、ここ天水町農協では、46年度から、みかんの施肥設計を思いきりよく“CDU化成 S420”重点に推進することにしたそうである。

このことは、去る9月28日、町の公民館で開かれた第13回熊本県みかん研究会(主催=県果樹研究同志会、県

果実農協連、天水町果樹研究同志会、後援=天水町、天水町農協)の資料にも、“品質の均一化と経費節減のため、46年度より緩効性肥料(CDU S420)を推進する。”と記されていることでハッキリしている。

では、なぜ天水町農協が、46年度からCDU S 420重点に施肥設計を推進することになったのか?それにはそれだけの理由がなければなるまい。

その“なぜか”を知りたかったのと、田上さんの人柄にひかれるままに、筆者は10月の下旬の或る日、チッソ旭肥料福岡営業所の光吉善美さんを先導役をお願いして、ここ天水町農協を訪れたという訳だ。

さて、天水みかんの沿革はすでに述べてので、ご参考までに天水町の地勢などを記しておく。

この町は熊本県玉名郡の南端にあり、熊本市を距ること24Km、東は玉東町、南は飽託郡河内芳野村、西南は有明海に臨み横島村、北は12Kmで玉名市に隣接している。面積21.52 Km²、金峰山系の三の岳、熊野岳などを戴く丘陵地帯に、500 haのみかん成木園の集団が形成されている。

土質は一般に、安山岩を母岩とする植土と植壤土(表土は一般に浅い)である。年間平均気温は16.5°C(冬期最低気温は-5°Cなるときもある。)、年間降雨量は1,800 m/m。海洋性気候を帯び、比較的温暖で、みかん栽培には全く恵まれた環境にある。

〔経営規模〕

戸 数 1,777戸 うち農家 1,267戸

耕地面積

(町内面積)	水田	510ha	柑橘	765.5ha
(町外面積)	水田	0	柑橘	152



まず肥料費を節減せにや(田上さん)

天水のみかん作りは宿命です。(中村さん)



経営形態 柑
橘専業 251戸、
水田専業152戸、
柑橘水田兼業
864戸

1戸当平均
水田 0.5ha
柑橘 1.1ha

理想的な

肥料とは……

“天水町の概況はこんなところですが、ここから昨年は早生温州が6,000トン、普通が19,000トン、雑柑2,000トン計27,000トンの収量実績を挙げておりますが、今年は気象条件に恵まれた関係もあり、且つ表年ということで、早生8,000トン、普通24,000トン、雑柑3,000トン計35,000トンと3割増の収穫が予想されとります。”

“? 豊作だと、また43年と同じように暴落するのじゃないか? 皆さんそう云いますね…。あのときは、豊作に対処する調整策が産地になかったのが暴落の大きな要因ですよ。大豊作ちうカゲにおびえてせんでもええ悪あがきをされたのと違いますか? 10月20日大阪東部市場における天水みかんは、30Kg入り段ボールケース2,200円ちう報告がきとりますが、値良く売るためには、日本一にええ品質、それも均一な品質のみかんを作らにゃ…。他産地のみかんを、どうしたら凌駕(りょうが)でくるか、そこが眼目ですわ。もっと判りやすく云うと、うまいみかんとは、高く売れるみかん云いかえてもええし、そのためには市場や消費者の信用を得ることと、それを確保するために“量”と“計画性”と“品質の向上”と均一性ということをおぼろげに忘れたらならんのですよ。”

“前二者はさておいて、外観つまり着色と糖含量は関係があり、色付きのうえものはほど甘いとも云われとるように、見栄えのするみかんは必然的に、うまいみかんということにもなる云うてもええのです。”

“ところで市場では、品質のええもの、悪いものが混入している場合、セリ値は最低の品質を基準に決められてしまうので、どうしても品質の均一ということが絶対的な要件になってくる。それを実現する手段として、一つは選別の徹底であり、いま一つは栽培技術面における改善ということでしょう。選別の問題はおくとして、技術改善の基礎資料を得る目的で、字別に土壌条件、果実の品質、着色などをアンケート調査を実施したことがありますが(43年)、その結果、気象的にも土壌的にも、

また樹令などみかんの生育条件がほぼ等しい地区でありながら、果実の品質に相当大幅なバラツキが出ました。これは明らかに栽培管理が統一化されていないことによるものだと思います。”

“ところが、土壌を改良すると云いまして、農協の合併が促進されたため、非常に広域にわたる面積を対象に土壌改良をしなければならん。これでは、とうてい理想的な土壌改良はむずかしいですよ”

と、田上さんは首を横に振るのだった。

主要成分をバランスよく

含んでいることが必要だ

“ところで、品質の向上や収量の増加に、いちばん何が影響するかというと、試験場やその他研究機関のデータからみても、年間に施用される10a当りのN量によることが判ります。一般的に化学肥料の連用は生産力の低下を来すと云われております。しかしこれは、化学肥料を連用した結果、石灰や苦土或いはその他の微量元素などの流亡と、その補給のバランスがくずれたためだと思われれます。”

のみならず、労働力不足を補うために施肥機(ブロードキャスター)を使用するとすれば、どうしてもこれに適合する肥料でなければならないと同時に、一方には国内的には他産地との競争に打勝たなければならない。そのためには、イ)土壌を悪変したり、根に濃度障害を与えず、ロ)主要成分がバランスよく含有されていて、微量元素を含み、ハ)果実の品質や収量を低下させず、ニ)持ち運びに便利で施用しやすく、ホ)値段が安く、しかも普通温州、早生温州、幼木いづれにも施用可能な肥料が欲しい。そして CDU S420*こそ、これらの要件を備えた肥料だということだ。

“ああ、当農協で“CDU 化成”を導入に決定した経過…。実を云うとね、わしの実家は水俣でして、父がみかん栽培をやっている関係で、早くから“CDU”の単体や化成と、その試験結果などを聞いてはおりましたが、導入のきっかけは、昨年春2,3の生産農家から“何か新しい、よいみかん肥料を教えて貰いたい”という話から、昨年11月に“CDU”化成のみかん肥料に導入することに決めた次第です。今年度は全施用成分量に対して春肥28%、夏肥29%、秋肥50%を施用しました。”

ということであるから、46年度には“CDU S420”は相当大幅な飛躍が期待される訳だ。

* くみあい苦土マンガンほう素入りCDU 複合硝磷加安 S420
T-N14.0 (AN-7.5, NN-N2.0) C-P12.0 (W-P5.0)
K₂O 10.0 MgO 4.0 MnO 0.20 B₂O₃ 0.10

田上さんが云う“他産地との競争に打ち勝つためにも。”と云う九州全域と熊本県産みかんの生産費とそのう

ちの肥料費だけを対比しても

	43年度		44年度	
	生産費計	肥料費	生産費計	肥料費
熊 本	106,700	18,500	98,200	15,400
九 州	90,672	13,702	85,057	12,109



たわわに実るみかん

のとおり、熊本県のそれは相当な幅があることがハッキリしている。その幅を田上さんは“CDU化成S420”を重点的に推進することによって、できる限り値幅を縮小しようというのが狙いである。がさて、慣行の配合肥料5種類の価格とどの程度の値開きがあるか、秋

肥について対比してみよう。

区分	銘 柄	N P K	単 価	10a 当 施用量
早生	配合26号	10・9・6	1,350円	5俵
	〃 27号	8.5・9・6	1,360円	5.5俵
普通	配合30号	10・7.5・7.5	1,250円	4俵
	〃 31号	10・7・7	1,440円	4俵
幼木	配合25号	9.5・7・6.5	1,190円	4俵

これから割出すと、10a当り肥料の価額は、

配合26号	6,750円	配合30号	5,000円
〃 27号	7,480円	〃 31号	5,760円
〃 26号	4,760円		

となるが、CDU S420一俵は(14.12.10)千円札で結構お釣りが来るというのだから、仮に春夏秋肥に4俵ずつ施用したとしても、10a当りの肥料費は1万円ギリギリか、ほんのチョッピリオーバーする程度に抑えられるし、苦土、マンガン、ほう素などの各要素を含んでいるので、土壌を劣変させたり、要素欠乏を来たすこともない訳である。(それかあらぬか、植木町農協では、CDU S420を西瓜の施肥基準の中にも組入れていると云うことだ。

“専務さんが見えている”と、田上さんにうながされて、中村専務理事にお目にかかる。

“え? 写真をとるとですか? わしは写真はにが手じゃがなあ…”と云われている間にパチリとやったのが別掲の写真。

“当面の動向はどうも歓迎でけんのですが、当天水町にとって、みかん作りは正に“宿命”ですわ。誰がなんと言ったところで、一生懸命作らにゃならんのですわ。それにわきの産地と違うて、とくに人工的に手を加えにゃならんこともなく、いわば非常に天然に恵まれるとるけん。”

“ただ、ここはいわゆる旧産地でありますだけに、旧習を打破せにゃならんちう面が沢山あるのです。わしらは構造や経営の面について、また田上君らは、生産指導の面から熱心に活動しとりますよ。”

“じゃから、天水のみかんは“日本一”じゃちう誇りにかけて、ええみかんを作らにゃならんのです。当面の農業環境? いかにも悪いですなあ! わしらもこの問題を考えん訳ではない。しかし、それよりもまず国内的には他産地とのはげしい競争に打ちかたねばならんのです…。どうしても残らねばならんのですよ。”

“自由化問題にどう対処するかって? そりゃね。あなた、そういう政策的な問題は、佐藤栄作とか、倉石忠雄だと、それぞれ役者がいますから、そういう人達が考えればええこと、農協を運営する立場にある者としては、政策よりも、どうやって“日本一”のみかんを作るかで頭がいっぱいですわ。”

素朴な中村さんの口から出る言葉は、別にどうということもないようだが、それでいて、芯の強いものを含んでいると思われた。

あ と が き

まだまだと思っているうちにもう11月になった。ふと耳をすますと、近くの八幡宮で祭り太鼓が鳴っている。家の者に“今日はおとり様ですよ。”と云われ、今さらのように月日の経つのが早いのに驚いた。文化の日も過ぎて、23日は勤労感謝の日。例年なら豊作をたたえてのお祭りをする筈だが。ことしはちょっとそういう気分にはなりきれないような感じがする。

編集子も11月…と聴くと、何かおいつめられたような感じで、急に身辺が気になり出した。12月号の編集を終れば、今度は新年号が待ち構えている。なお新年号は、例によって“特集”にするつもりです。何が出るかご期待下さい。(K生)